

たまねぎレポート【第385号】



令和元年11月26日

社 内 報

阪南青果株式会社

10月の天候は、北・東・西日本で気温はかなり高かった。台風19号による記録的な大雨などで、北日本の太平洋側と東日本では降水量がかなり多かった。沖縄・奄美では、降水量が少なく、日照時間が多かった。11月も平年に比べ気温の高い日が多く、北日本の初霜、初雪も平年に比べ遅かった。

気象庁の12月～2月の3か月予報では、この期間の平均気温は平年並み亦は高い確率とともに40%。降水量は、北・東日本の日本海側で平年並み亦は少ない確率とともに40%。日本海側の降雪量は平年並み亦は少ない確率とともに40%。

12月、北・東日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪亦は雨の日が少ない。西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨亦は雪の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様

に曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が少ない。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪亦は雨の日が少ない。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、曇りや雨の日が多い。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪亦は雨の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、曇りや雨の日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

10月の建値市場の野菜の販売量は、250,465トン前年比99%で、市場別ではバラツキがあり、大阪本場と東京市場以外は前年を下回った。平均単価は¥201前年比83%で、総ての市場で前年比2桁安となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比87%、平均単価はkg ¥149前年比89%。東京市場の販売量は前年比101%、平均単価はkg ¥217前年比82%。名古屋市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg ¥195前年比84%。大阪本場は前年比105%の販売量で、平均単価はkg ¥200前年比78%。福岡市場は前年比97%の販売量で、平均単価はkg ¥172前年比86%となっている。

建値市場の10月の玉葱販売量は25,609トン前年比88%、平均単価はkg ¥77前年比81%で、数量減の価格安が常態化し、深刻の度合いを増している。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は3,872トン前年比72%、平均単価はkg ¥63前年比77%。東京市場の販売量は9,755トン前年比95%、平均単価はkg ¥81前年比81%。名古屋市場の販売量は5,662トン前年比82%、平均単価はkg ¥75前年比84%。大阪本場の販売量は3,

766トン前年比105%、平均単価はkg ¥80前年比76%。福岡市場の販売量は2,554トン前年比91%、平均単価はkg ¥85前年比86%となっている。いずれの市場も、北海物はJA系統の指値が高く、仕切り価格と実勢価格に逆鞘現象が生じ、売れば売るほど損が大きく、消極的な販売が続いている。市場関係者は、北海道産地での倉入れ作業が終了し、需給が改善され正常な市況に復帰することを願っている。

日本農業新聞社の集計に依ると、全国主要7地区の代表荷受7社の10月の主要野菜14品目の販売量は、115,922トンで前年比5%減、平均単価はkg ¥116で前年比19%安、過去5か年の平均値比では14%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ナスが32%増、ピーマンが18%増、ホウレンソウが6%増など5品目。前年比減の品目は、タマネギが22%減、ダイコンが14%減、ジャガイモ・サトイモが6%減など8品目。価格が前年比高であった品目は皆無で、前年比安となった品目は、14品目総てとなっている。大幅安の品目はニンジンがkg ¥87で前年比49%安。ハクサイがkg ¥53で40%安。ピーマンがkg ¥317で31%安、ナスがkg ¥305で30%安、タマネギはkg ¥64で前年比17%安となっている。入荷減の全面安は異常である。

東京都中央卸売市場の10月の野菜の入荷は、124,781トン前年比101%(前月比108%)。平均単価はkg ¥217前年比82%(前月比84%)となっている。主要品目で入荷が前年比増の品目は、ナスが前年比122%、パレिशョが112%、ピーマンが109%など11品目。入荷が前年比減の品目は、ダイコンが前年比90%、タマネギが95%、キャベツが96%など4品目。販売単価が前年比高の品目は皆無。前年比安の品目は、ニンジンがkg ¥108で前年比51%、ハクサイがkg ¥57で56%、レタスがkg ¥148で72%など、15品目総てが前年比安となり過去に例を見ない異状市況であった。

東京都中央卸売市場の10月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	135,007	100.5	108.2	217	82.4	84.4
た ま ね ぎ	9,755	94.7	107.0	81	80.5	96.4
キ ャ ベ ツ	17,568	96.3	104.6	74	85.5	79.6
は く さ い	17,523	102.7	172.2	57	56.0	56.4
だ い こ ん	11,155	90.2	110.3	81	82.7	93.1
に ん じ ん	8,306	106.4	116.6	108	50.9	90.0
レ タ ス	8,139	103.3	91.2	148	72.2	74.4
ば れ い し ょ	7,651	112.1	107.3	92	78.4	85.0
き ゆ う り	6,119	105.7	77.4	311	77.1	100.6
ト マ ト	5,963	102.5	94.3	453	93.5	97.8
ね ぎ	5,230	98.3	121.5	329	80.3	101.2
か ぼ ち ゃ	3,355	110.1	101.0	140	58.1	98.6
れ ん こ ん	884	96.7	102.2	373	90.4	85.0
な が い も	803	104.6	80.3	306	77.3	94.4
に ん に く	275	109.5	95.8	736	78.8	92.3

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の10月の玉葱の入荷量は、9,755トン前年比95%（前月比107%）であった。10月後半は台風の後遺症で、鉄道便の復旧が遅れ北海物の入荷減少傾向が続いたことや、入荷は極早生種から早生種のオホ

一ツク222に切り替わったことで、品質が安定化し、市況は回復歩調に転じたが、長くは続かなかった。10月の入荷量は9,755トン前年比95%(前月比107%)。北海物主力で北海物のお荷は、9,452トン前年比97%、占有率は97%前年比3%アップ。中国物は225トンのお荷で前年比48%、占有率は2%前年比3ポイントダウン。兵庫物は68トンのお荷で前年比85%、占有率1%で前年並み。平均単価はkg¥81前年比81%(前月比96%)。産地別では、北海物はkg¥81前年比80%。中国物はkg¥88前年比106%。兵庫物はkg¥130前年比85%、前月に続き数量減の価格安で、需給は悪化している。

11月に入ってから、荷動きは好転せず、お荷は減少せず、市場内は荷余り状態が続き、日々在庫が増加した。地方市場への転送需要もなく、地方市場も売れ行き不振で、逆に転売を打診される状態であった。市場内の仮置き場は満杯で、成り行き販売をせざるを得ない環境に追い込まれ、裏相場は2L~Lサイズのいずれも同値で¥1,100~1,000に落ち込んだ。産地にお荷抑制を要望するも応じて貰える気配なく、厳しい販売環境が続いた。現在も、販売環境に変わりはなく、むしろ需給関係は厳しくなっている。転送業者から仲卸に割安品の売り込みが増加していることや、産地からは多少安くても量的販売を希望するJAもあり、当面市況回復の可能性は薄い。東京市場の1~20日のお荷量は、5,939トン前年比89%、平均単価はkg¥80前年比75%。産地別では北海物が5,725トン前年比90%、平均単価はkg¥79前年比74%。中国物が153トン前年比49%、平均単価はkg¥87前年比106%。兵庫物は35トン前年比106%、平均単価はkg¥137前年比80%。となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の10月の玉葱販売量は、5,662トン前年比82%(前月比117%)で前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売

量は5,594トン前年比82%、占有率は99%で前年比3ポイントアップで、北海物オンリーの状態であった。兵庫物の販売量は19トン前年比32%。総平均単価はkg¥75前年比82%(前月比94%)で前年比、前月比ともに下回っている。産地別では、北海物はkg¥75前年比82%。兵庫物はkg¥163前年比116%となっている。

11月に入ってから、荷動き鈍く、兵庫の冷蔵物は注文に応じて必要量の出荷を要請しているが、北海物の入荷は順調で荷凭れ状態が続き、在庫は日々増加傾向となった。北海物はJAの仕切り値は¥1,500~1,400の要請で前月と変わらず。赤字を回避した販売に努めているので、在庫増は避けられない。現在、着荷の品物はいずれの銘柄も品質的には安定し、ストック時の劣化の心配はしていない。市場の仲卸の多くは、転送屋の割安品の買いを増やし、荷受けの割高品は買い控えられている。産地JAのなかには、相場安は止むを得ないとして量的販売を要請する処もある。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の10月の玉葱の販売量は、3,667トン前年比105%(前月比89%)で前年比増、前月比減であった。主力の北海物は、台風の影響で輸送が乱れたため、上旬が前年比85%、下旬が74%と減少したが、下旬には143%の大幅増となった。従って月間販売量は2,912トン前年比102%、占有率77%前年比2ポイントダウン。兵庫物は710トン前年比103%、占有率は19%で前年と同じ。長崎物は103トン前年は入荷なし。占有率は3%。平均単価はkg¥80前年比76%。産地別では、北海物はkg¥76前年比78%。兵庫物はkg¥97前年比69%。長崎物はkg¥71で前年販売なし。

11月に入ってから、産地の出荷調整はなく、順調な入荷が続き、売れ行き不振で、下値中心の販売で、一部下値を割り込む販売も発生している。産地JA

の指値高の実勢価格安の厳しい販売環境が続き、売れ残りが増加している。荷受け各社は採算割れの販売に苦しみ、市場に活気がなく、沈滞ムードが続いている。大阪本場の1～20日の入荷量は2,866トン前年比119%、平均単価はkg¥77前年比71%。産地別では、北海物が2,390トン前年比116%、平均単価はkg¥72前年比72%。兵庫物は448トン前年比123%、平均単価はkg¥104前年比69%。となっている。関西地方には、加工業者が多く、安値を下支えして来たが、12月は入荷減か、寒波到来で需要増が起きない限り、相場の維持回復は至難である。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の10月の玉葱の販売量は、2,554トン前年比91%（前月比109%）で、前年比減、前月比増であった。北海物主力で北海物の販売量は2,173トン前年比92%、占有率は85%前年比1ポイントアップ。中国物が177トン前年比65%、占有率7%前年比3ポイントダウン。佐賀物が69トン前年比107%、占有率3%で1ポイントアップ。長崎物が66トン前年比235%、占有率3%で2ポイントアップ。平均単価はkg¥85前年比86%。産地別の平均単価は、北海物がkg¥83前年比84%、中国物がkg¥77前年比104%。佐賀物はkg¥88前年比73%。長崎物はkg¥100前年比77%だった。

11月に入って、上旬の需給は概ね均衡状態で、荷動きはそれなりに動いていたが、北海物は指値が高く腰の重い動きで一部売れ残りが発生した。香川の冷蔵物は少量の入荷だが品質良好で、まずまずの動きであった。中旬からは北海物の入荷は増加傾向となったが、売れ行き不振で在庫が増加した。愛媛の冷蔵物も入荷が始まったが、品質良好だが北海物に押されて、10kgL・M ¥1,000～800の割安販売となった。現在も荷動き低迷で北海物はL大 ¥1,500の維持が困難で安値は ¥1,300に落ち込んでいる。1～20日の販売量

は1,698トン前年比112%、平均単価はkg¥80前年比78%となっている。

11月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷334トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500～ L大 ¥1,700～1,050、 L ¥1,400～ 900。

北 海 20kgNT2L ¥1,250～ L大 ¥1,000～ 950、 L ¥950 ～ 900。

【太田市場】 入荷268トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,100、 L大 ¥1,400～1,100、 L ¥1,100～1,000、
M ¥1,200～1,100。

佐賀(冬採り)5kgDB2L ¥1,300～1,200、 L ¥1,500～1,400、 M1,300～1,200。

【名古屋北部】 入荷132トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,200、 L大 ¥1,500～1,300、 L ¥1,400～1,200、
M ¥1,200～

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300～1,200、 L ¥1,300～1,200、 M ¥1,200～1,000。

【大阪本場】 入荷213トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥1,300～1,200、 L大 ¥1,300～1,200、 L ¥1,300～1,100、
M ¥1,200～1,100。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,000～ 900、 L ¥1,100～ 900、 M900 ～ 800。

【福岡市場】 入荷171トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,400、 L大 ¥1,600～1,300、 L ¥1,500～1,300、
M ¥1,400～1,200。

愛 媛 10kgDB2L ¥900 ～ 800、 L ¥1,100～ 900、 M1,000～ 900。

供給(産地)の動き

10月の主要市場の野菜の販売量は、前年比減の前年比安の市況で、秋冬野菜総ての品目が安値続きで、いずれの産地も再生産意欲が減退している。玉葱も数年振りの安値に見舞われ、北海道産地は倉入れ後の販売対策に、府県産地は次シーズンの作付に不安感を強めている。

北海道産地

今年は冬の訪れが遅れていたが、此処に来て冬本番の気候になり、倉入れも終盤を迎えている。今年産の玉葱は豊作と、出荷の後ズレで現在の産地在庫は前年比20～25%程度多いと予想されている。既に貯蔵用倉庫が満杯で出荷を焦っている処もあると言う。過去数年来の市況は、いずれも再生産価格を上回っていることから、産地関係者の多くは、12月以降の市況は回復すると期待感が強い。例年、12月には堅調市況に誘導する対策として、ホクレンが出荷調整に入るが、今年は市場関係者から、早期の出荷調整を要請されてきたものの、未だ出荷調整の動きはない。産地在庫の品質は、球肥大、球締りが良く、貯蔵性にも富むが、先行きに不安感が出始めている。

府県産地

冷蔵物の出荷は総じては計画通りの出荷が続いているが、安値市況で採算割れとなっている業者もあり、出荷を先送りしている処もある。次シーズンに向けていずれの産地も定植の最盛期となっている。

早生系の多い佐賀ではマルチ栽培の早生の定植は終了し、中晩生の定植が最盛期になっている。近年、省力化からポット育苗が増加しているが、ポット育苗の苗立ちはポット資材の良否等からバラツキがある。慣行の育苗床は苗立ち良好である。初期生育の良否判断は年明けになる。今年は病害に因る減収と市況安で栽培意欲が減退している。次年度作付けは種子手当からの推測では、

早生は増反、中晩生は減反で、総体的には前年比10%程度減反となる予想。

中晩生主力の兵庫県淡路島では、早生の定植は終了し、中晩生の定植最盛期を迎えている。早生の育苗には良否のムラがあったが、中晩生は苗立ち良好で、活着も順調である。作付は耕地整備地区が減反となるが、既整備地区の復元があり、作付面積は概ね前年並みと予想されている。関係機関の直近の育苗調査では、べト病の発生率は0%(前年0%)、白色疫病の発生率1%(前年1.1%)、細菌性病害の発生率13.7%(前年4.3%)、亦、生理障害(葉先枯れや下葉枯れ)の発生も散見される。過乾湿による根傷み、短い剪葉等に起因する。

輸入動向

10月の輸入は、速報値で23,174トン前年比93%。北海産の加工向け供給量が増加している割には輸入の減少幅は予想したよりも少ない。殆どが中国物で輸入量の99%を占めている。人件費と残滓処理費の軽減が原因と予想。国別では中国が22,874トン前年比96%。アメリカが300トン前年比27%となっている。

中国、現在の日本向け産地は甘肅省で、減反に加え減収となったことで、産地価格は急騰している。品質的にはA品が少なく、B品が多くなったことで、前月までは国内マーケットはB品の出回りが多く、軟調相場が続いていたが、此処に来て日本向けのA品が急騰している。剥き玉20kg・C&F・今週積 \$ 6.40~7.00、来週積 \$ 7.00~7.20、来々週積 \$ 8.40 と値上がりしている。インド産が不作でバン格拉デシュ、ネパール、スリランカ等のアジア諸国からのオフアも多いと言う。

アメリカ、日本向け産地の作柄は平年作をやゝ下回り、倉入れが遅れており、現在のオフア価格は50¢・C&F・ \$ 11.00。

ニュージーランド、生育途上だが、欧州物の在庫が豊富で日本向けに関心が強まっている。現在のオフア価格は20kg・C&F・ ¥ 1,100。

12月の市況見通し

12月は煮物野菜が需要期となることや、量販店の年末需要などで需給が引き締るのが通例であるが、現状の販売環境は極めて厳しく、北海物の産地在庫増や流通段階の滞留増で、需給の改善には時間が掛かると見ている。亦、採算割れの販売が続いている市場荷受けには、売り込みに拍車がかからない。市況を好転するには、産地と荷受けが一体となって、現状を検証し策を講じる必要があると思う。双方に相互理解と協調性がなければ、現状打開は困難で、現状維持が精々で、実勢価格に落ち込む可能性も否定出来ない。(了)